

朝来市地域就農・定着応援プラン

作成年月日 平成30年 2月25日
(改訂年月日) 平成 年 月 日

チーム名 朝来市地域就農・定着応援チーム

地域の概要

1 位置

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、京阪神から鉄道、高速道路等を利用しておよそ1時間半から2時間で、また、姫路からJR播但線や播但連絡道路等を利用しておよそ1時間で直結する距離にあり、但馬・山陰地方と京阪神大都市圏を結ぶ交通の要衝の地にあります。

2 人口

朝来市の人口 30,805 人、世帯数 11,500 世帯 (H27 国勢調査)

3 気候

日本海側気候と内陸性気候の要素を併せ持っていて、その気象は、年平均気温が14.0℃、兵庫県南部に位置する神戸市の年平均気温を少し下回る。年間降水量は1,831mm、年間平均風速は1.7m/s。で風速は弱いですが、複雑な山間部の地形により、時折非常に強い突風が吹きます。また、日照時間は、都市部と比較してやや短く、一年を通じて昼夜の温度差が大きい。さらに、冬季は降雪があり、1月から2月にかけて積雪量が増加する。このような気象条件に加え、円山川沿いの盆地という地形が影響し、晩秋など昼夜の寒暖差が大きくなる時期の早朝は濃霧が発生しやすい環境となっています。

4 朝来市の農業

耕地面積 1,750ha のうち約 90%が水田で占められ、これらの水田の利用は水稻が主体である。一方で、転作活用により地域の特産である岩津ねぎ、黒大豆を中心に野菜・飼料作物等の栽培も行われています。

5 観光

古代から近世にかけ、歴史や文化に彩られた地域であることを示す多くの遺構が残されています。近畿地方最大級の規模を持つ円墳「茶すり山古墳」、秋の雲海に代表される壮大な景色から「天空の城」として全国的に有名な「国史跡 竹田城跡」、約1200年の歴史を持ち、中世から近代にかけて国を代表する鉱山であった「史跡 生野銀山」など多くの名勝があります。特に、「生野銀山」は、国内でも貴重な近代化産業遺産であることから、産出された鉱石を運ぶために作られた「銀の馬車道」や「鉱石の道」を含め、「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～」として、平成29年4月に日本遺産の認定を受けました。

6 地図



■朝来市ではこのような農業をしています

1 主要産品

○岩津ねぎ

岩津ねぎについては、歴史は古く、「朝来誌」(明治36年)によると、生野銀山が栄えた江戸時代後期の共和3年(1803年)ごろに、鉱山労働者のための冬季野菜として旧朝来町岩津地区で栽培させたのが起こりとされています。岩津ねぎは九条ねぎの改良種で、極めて柔らかく日持ちが悪かったことと、分けつする性質が強すぎたため、昭和2年~10年頃に、兵庫県農業試験場但馬分場で、関東の千住ねぎを交雑育種し、「改良岩津ねぎ」が育成され、この品種が作り続けられています。

現在では、岩津ねぎの商標権を取得して生産組合員約250名、生産面積は約27haで年間出荷額約1億円あり朝来市を代表する農作物となっています。

また、岩津ねぎの栽培に関しては、水稻のような多額の初期投資が不要であり、高収益が安定して見込め、新規就農者の皆様にも取り組みやすい農産物であります。

一方で、生産者の高齢化により生産年齢の平均は70歳を超えており将来産地として生産面積の維持も難しくなると危惧されます。

○黒大豆

現在の生産面積は、43haではありますが、生産者の高齢化及び集落営農組織の衰退により年々面積は減少傾向にあります。

しかし、近年、黒大豆の枝豆の需要が高まる中で高収益作物として注目を集めており、市内生産者の中にはオーガニック栽培で3年連続金賞、平成30年には最高賞のグランプリも受賞され、大手高級スーパーと取引をされて順調に所得を伸ばされている農業者がいます。

○ピーマン

国指定産地作物に指定され、但馬を代表する最も高収益な農作物であります。
市内では、まだまだ栽培面積は少ないですが、生産者の多くは高齢者や女性が生産できる農産物として現在注目されています。

2 収入の目安

○岩津ねぎ（100a 作付した場合）

60 万円／10a×100a=600 万円

○黒大豆（100a 作付した場合）

20 万円／10a×100a=200 万円

○黒大豆枝豆（100a 作付した場合）

30 万円／10a×100a=300 万円

○ピーマン（10a 作付した場合）

150 万円／10a×10a=150 万円

求める新規就農（研修希望）者

■朝来市では新規就農（研修希望）者を募集しています。

○農業が好きな方

○将来農業を生業とする方

○岩津ねぎ（朝来市特産）の生産を頑張ってくれる方

○朝来市認定農業者等（30 者の親方）の元で最大 3 年間の研修を熱心に受けられる方

○朝来市に移住し地域活動を積極的に取り組める方

就農者への支援

■朝来市独自の就農支援制度を創設しています。

○要件

- ・研修開始時の年齢が 61 歳以下
- ・農業生産基盤を相続等により取得できないこと
- ・研修終了後 5 年間は朝来市において就農すること
- ・市税等市の徴収金に滞納がないこと
- ・生活保護、失業保険等の給付を受けていないこと
- ・暴力団排除条例第 2 条に規定する関係者でないこと

○補助金額

45 歳以下 月額 150,000 円 46 歳以上 月額 100,000 円

○補助期間

最大 3 年間

○研修時間

年間 1,200h 以上 1,800h 以内 35h 以内／週

○その他

H30 年 12 月末現在 13 名が就農研修活用中

生活・子育て支援

■住まいの支援

○移住の前に1年間限定で体験住宅制度があります。

市内4箇所の体験住宅があります。

○あさご暮らし住宅取得等応援事業

対象者

転入者で40歳未満の者または義務教育終了前の子を有する者

補助内容

住宅の新築・購入費用の一部補助

補助金額

最大90万円（基本補助40万円＋転入者加算20万円＋同居等加算20万円
＋市内業者による新築加算10万円）

○空き家活用促進事業

対象者

建築後10年以上の空き家を取得した転入者または新婚世帯

補助内容

空き家の内部改修費用の一部（1/2）補助

補助金額

最大70万円（基本補助60万円＋市内業者加算10万円）

○朝来市定住促進住宅

標準家賃45,000円/月（最大入居可能期間10年）

（減額措置）移住者5,000円

子育て世帯（15歳未満の子を養育している世帯）2,000円

8歳未満の子を養育している世帯さらに1,000円

■医療サービスも充実

○子育て世帯の経済的負担を軽減するため、医療費を0歳から中学3年生までは原則無料です。

○高校生の入院に関する費用は原則無料です。

○公立朝来医療センターを核として、市内には民間の診療所24箇所があります。また、休日診療として南但休日診療所があります。歯科医院は15箇所あります。

■子育て支援も充実

○保育料

3歳未満児 最高額23,000円/月

3歳以上児 最高額15,000円/月

■子育てと仕事の両立

○認定こども園及び保育園

市内11箇所のこども園、2箇所の保育園があり、待機児童はゼロで、安心して仕事ができる環境が整っています。その他、学童クラブ11箇所、小学校11箇所、中学校4箇所、高校2箇所があります。

問い合わせ先

■朝来市の就農に興味を持たれた方にご連絡ください

朝来市産業振興部 農林振興課（担当：平松裕一郎、小笠原 徹、西谷由華子）

電話：079-672-2774（直通）

メール：農林振興課 nourin@city.asago.lg.jp

平松裕一郎 hiramatsu-yuhichiroh@city.asago.lg.jp

小笠原 徹 ogasawara-tohru@city.asago.lg.jp

西谷由華子 nishitani-yukako@city.asago.lg.jp